

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表	2021年3月31日公表	事業所名	多機能型児童発達支援事業所ひなた
----	--------------	------	------------------

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		児童が安全に過ごせる様に配慮している	構造化等の工夫でスペースの使い方を工夫していきます。
	2	職員の配置数は適切である	○			職員増員に向けて、採用活動を積極的にこなしている	人員配置は適切だが、児童の特性による困難さがある。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○				
業務 改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○				
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			・出来る限り保護者の意向に添えるよう、お話を聞くようにしています。 ・送迎時等、情報共有をしています。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で	○				
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○			
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			定期的に研修を行っている。	現在事業所で抱えている課題とマッチしていない為、研修をする前に事前に課題を考え取り組む必要があります。
適切 な 支 援 の 提 供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			ニーズ管理表を用いてケース会議を数名の職員で行っています。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○				
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○				
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			月案支援計画を立てて実行しています	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			クラス会議等で協議しています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			プログラムを協議する時は季節や児童の喜ぶようなものを取り入れています	今後は固定にならないように、色々なアイデアを出していきたいです。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			就学前学習に力を入れています。		

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			朝のミーティングで内容等の確認や留意事項は話し合っています	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○				
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○				
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			クラス会議で伝達を受けて判断している	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○			
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎に来られる家族に直接お話を聞いています。その他のご家族とは電話等でお話をしています。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○			

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○				
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○			
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○				
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○				
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○				
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○				
40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナウイルスの影響を受けて、一時的に中止しています		
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○				
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○				
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○				
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○				
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○				
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○				
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			拘束はしていない	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果（公表）

事業所名	多機能型児童発達支援事業所ひなた	保護者等数／児童数	15／15
		回答数 [割合 %]	11 [73%]

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制整 備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	7	0	0	4	室内をじっくりと見たことがない。	コロナ禍が収まり次第、ご家族との面談を予定しています。
	2 職員の配置数や専門性は適切である	6	1	0	4		各クラス職員の専門性を保護者の方にわかりやすいように見える化します。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	7	1	0	3		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	7	1	0	3		
適切な支 援の提 供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	10	1	0	0		保護者からのニーズ管理表を用いて多数の職員とケース会議を行い作成しています。
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7	2	0	2		保護者の方にわかりやすく説明できるようにしていきます。
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	3	0	0		
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	7	1	0	3		月間予定や連絡帳だけでなく、保護者へ確実にその日の様子が伝わるよう工夫していきます。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	1	0	9		コロナ禍が収まり次第、地域との交流を考えております。
保護者 への説 明等	10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	8	1	0	2		
	11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	11	0	0	0		
	12 保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニングiv等）が行われている	5	1	0	5		
	13 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	7	2	1	1	課題の所において共通理解があまりできていない	保護者の方にわかりやすく説明していきます。保護者の方だけでなく、関係機関とも密に情報共有を行って、課題の確認をしていきます。
	14 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	6	2	0	3		ご相談にきて頂いたご家族だけでなく、定期的に全てのご家族と面談をしていきます。
	15 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている	2	2	2	5	保護者会に参加したことがない。	コロナ禍が収まり次第、ご家族同志の交流や情報交換が出来る様開催いたします。
	16 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	8	1	1	1		今後はより一層、迅速に対応できるようケース例を職員間で周知や研修を行っていきます。
	17 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	7	0	1	3		保護者の方に全職員に周知している事を必ず伝えていくようにします。
	18 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	8	0	0	3		通信等で保護者に発信していきます。
19 個人情報の取扱いに十分注意されている	11	0	0	0			

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
非常時等の対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	7	1	0	3		年に2回の訓練の様子を通信に載せていますが、保護者に担当者会議等で説明していきます。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	6	1	0	4		年に2回防災・風水害の訓練を行っています。
満足度	22	子どもは通所を楽しみにしている	9	1	0	1		
	23	事業所の支援に満足している	9	1	0	1	担当者が変わり、まだ良くわからない。今後を期待しています	

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。